

※この報告書は、なごや環境大学のウェブサイト上に記録として掲載されます。

様式2
(2023年度)

事業実績報告書

講座番号	B-16	講座名	夜の東山の森で虫たちを灯火採集！
記載日	2023/12/10	団体名・企業名	なごやの生き物調査の会

〈講座全体の概要〉(300字程度)

今年で18年目になる東山の森での昆虫の灯火採集調査では、ようやく新型コロナ流行前の様式に戻して実施しました。全4回の講座は灯火採集の基礎知識から具体的な虫の採集方法を説明・実演する第1回の座学に始まり、翌週第2回の屋外実習で灯火に集まる蛾類と甲虫類を採集、その翌日第3回の講座で採集した虫の標本作りをしました。11月の第4回報告会では採集した虫たちから得られたデータから、森には多くの生き物がくらしていること、名古屋の森の環境がこの多様な昆虫の命を支えていることを伝えました。灯火採集は初めての参加者も経験者も熱心に参加し、標本作りでは子どもも大人も夢中になりました。



※写真1の説明

7月15日夜、投下採集設備の前でガヤ甲虫を採集しているところ

※写真2の説明

7月16日午前、里山の家でスタッフの指導のもとで標本作製しているところ

〈企画・運営者の声(感想)〉(350字程度)

受講者の多くは「灯火採集」という珍しい体験に惹かれての参加であり、単発のイベント的な捉え方であるのは否めません。しかしながらできれば長く続く昆虫の調査の意味を理解して、たくさんの虫たちの命を支える東山の森が貴重な存在であり、今日ある森がこの先もずっと変わらずあり続けることが重要であること、そしてその持続性は、多くの生き物の一員である私たち人間の暮らしにもつながるものであることを少しでも感じてもらいたいと考えています。第2回、第3回の実習にはたくさんの申し込みがありますが、第4回の報告会でのまとめをもっと多くの実習の参加者に伝えたいと感じます。

〈受講者の声(実感した反応及びアンケートより)〉(3~5点、計350字程度)

- ・夜しか見られない生物の生態などが見られてよかったです。
- ・子どもだけでなく大人も興味をひかれた。
- ・はじめての体験でとても楽しくて面白かったです。
- ・ガヤ甲虫の標本作りは繊細で難しかったが子どもと一緒にやれて楽しかった。
- ・ガは苦手だったが、標本作りを通してその美しさを知った。